

品質管理は営業そのもの

長谷川社長の言葉から強く感じられるのは、品質管理と品質保証の重要性です。「良いものとは品質管理・品質保証に基づいて証明されるもの。特に、世界基準を考えると、品質管理・品質保証は絶対に不可欠です」

また、これらをしつかり行うことは、営業活動そのものだと社長は考えています。

「安全、納期義務、情報セキュリティをしっかりとさせることが大事で、それを徹底することで、良品を納品できるという証拠を示します。その結果、付加価値の高い仕事をもらって、厳しい経済状況の中でも生き残ることができるのです」と語ります。

「環境の整備」と「社員教育」の徹底

製造する環境にも重点を置き、新しく完成した工場は地震・風水害などの自然災害対

常に新たな挑戦を

「半導体製造装置は更新が目まぐるしく、機器の部品を作っている私たちも常に新しいことに挑戦していかないとお客様から相手にしてもらえません。設備投資も先を見て行っています。根本はお客様が求めていることに応える姿勢です」

と白倉社長は語ります。この精神は、飲食サービス業で培ったお客様に寄り添う姿勢から来ているそうです。飲食サービス業での経験が、積極的に顧客の期待を先取りする意識を持たせてくれたとのこと。

信頼性向上の取り組み

量産品については、工程別にマニュアルを作成し、担当者が変わっても対応できるようにしています。また、工場を耐震化するとともに量産品専用の製造場所を設けることで、精密部品の製造に影響を与える機械などの振動を最小

徹底した品質管理で未来を拓くリーディングカンパニー

策がされています。そのほか、異物が入らないようにするため、工場に窓を設けないなど、細部にまで工夫がされています。また、「生産工程の見える化」と「社員教育」を徹底するた

「先回り」することの重要性

加工業は顧客の依頼に応え

限に抑えています。品質管理の徹底が顧客の信頼度向上につながる和思考、問題があったときの対処法についても社員とともに改善を続けています。

先を見据えた設備投資

同社の強みは、IoTを活用した独自システムを導入し、データを収集・管理・分析し、受注する仕事の対応力を数値で判断できる点です。

IoTを活用した独自システムで進化するパイオニア

IoTの導入は生産効率を大幅に向上させると説明しています。工場内のモニターや社員に配布しているタブレット端末では、機械の稼働・生産状況を見える化するほか、過去の不具合記録を色分け表示し、効率的な生産体制を築いています。さらに、自動プログラミングシステムの導入準備も進めています。導入されれば、加工データを掛け合わせることから始まります。「業界の要望を先回りして準備することが必要」と社長は言い、新工場の建設もその一環であったことを強調しています。そして、この業界に必要なのは、今を知



▲新工場の外観。工場部分には窓がなく、異物混入対策がされています。

品質へのこだわりが、企業を強くする。

品質管理は燕のもののづくりの成長と発展の鍵を握る重要な要素です。品質管理のほかにも未来を見据えた設備投資などの取り組みを行っている、市内企業2社を紹介します。

り、未来を想像しながら動く姿勢です。加工業は、受託製造といって、発注があつてから図面を見て作ることが一般的ですが、これからは、自分たちで先回りして新たなものを作り出すことが大切だと考

えています。「製造業の中で最先端を走り続けなければならない」と語る長谷川社長の言葉の奥には、時代と業界の変化に対応し、新しい分野に積極的に取り組む姿勢がありました。

はせがわかつのり 長谷川克紀さん

有限会社長谷川挽物製作所
代表取締役社長

チタンなど難削材の加工に積極的に取り組み、半導体関連部品や医療機器、さらには航空機関連の部品を製造しています。



ホームページは
◀こちら

しらくらもとゆき 白倉幹之さん

株式会社ユーティエス
代表取締役

もともと飲食店勤務だった社長が、2004年に創業。アルミニウム加工が強みで、半導体関連部品や医療機器部品を製造しています。

ホームページは
▶こちら



せることで、生産工程を自動で生成できるようにするなど、さらに生産性が向上していく見込みです。100パーセントの結果をすぐに求めず、長期的な視点で技術を磨く姿勢が大切と言

い、5年・10年先を見据えた設備投資を行っています。企業理念である『今を追い越せ』に基づき、未来を見据えながら挑戦を続けています。



▲工場内に設置してあるモニターには、機械の稼働状況などを表示。生産体制の効率化を図っています。